



微笑みの国で学んだ医療（地域看護）

タイ バンコク&ポーターラム

訪問先：特定非営利活動法人Rehab-Care for ASIA & マヒドン大学

2019 3/10~3/15

健康総合科学科 2年 西川 敦彦

渡航先での旅程と活動内容

1日目と2日目：タイ西部のRachaburi県にて研修



訪問看護の見学①



訪問看護の見学②



デイクアセンターの見学①



デイクアセンターの見学②

3日目～6日目：バンコクにて、マヒドン大学の研修プログラムに参加させていただく



訪問看護に同行



デイクア施設を見学、一緒に体操



マヒドン大学の学生にプレ
ゼンを行いました



同じプログラムに参加した皆さん
マヒドン大学の先生方と

研修の目的

- ①タイの医療制度と地域看護の様子を視察し、日本との違いや、高齢者に対して地域を巻き込んでどのようなアプローチがなされているかを観察する。
- ②看護師やその他の専門職の、病院外での医療現場における活動の幅を視察する。
- ③日本人が運営しているデイクア施設が、タイの地域で機能している背景を探る。

目的を達成できたか

- ①：座学だけでなく、病院や医療施設を多く見学できたことが一つの要因に思う。
- ②：医療の現場では何もできず、ただただ笑顔でいることしかできなかった。笑顔も重要かもしれないが、ケアという観点でいえばやはり言語的なコミュニケーションは必要と感じた。
- ③：デイクアを設立した日本人の方はいらっしゃるなかったが、その方がいなくても施設として運営が行われていた。現地の人とコミュニケーションを密に取り、信頼できる人を見つけ、現地の人とともに施設を運営して行くことが必要ではないか。

研修を通して学んだこと

- ・タイでの看護師の様々な働き方
病院での看護師という働き方はもちろん、Nurse Practitioner制度も存在するようで、地域に密着した医療を医師ではなく看護師が提供していることも視察できた。
- ・地域密着型の医療の必要性
マヒドン大学の講義にて、看護師主導型のクリニック（医師がおらず、認定看護師しかいない）を紹介された。病院での医療だけではなく、退院後、病院の外での医療も行なっていく必要があると強く感じた。

反省点

研修内容に関わるどころでは、特にありません。自分もまだ日本の公衆衛生についてよくわかっていない部分があるなど課題はありましたが、日本に戻ってよく勉強したいと思います。
現地語が分らず苦労したので、挨拶くらいはわかるようにしておいたほうがいいのかもかもしれません。

将来の進路決定へどう影響したか

病院だけでなく、地域の診療所やデイクアで働く人たちを見て、海外研修に行く前よりも看護師として働くイメージが湧いた。また、言葉が通じにくいながらも、施設を利用されている方と話したり、アクティビティをする様子を見ると、医療者として現場に関わる楽しさを感じた。自分にはもしかしたら看護師という職が向いているのかもしれないと感じた。
国際保健については関心があったが、実践されているのをこの目で見るのは初めてだった。現場で活動されている方から、どのような経緯があって今に至るのかを聞くことができ、非常に参考になった。

研修支援制度に望むこと

海外の医療に触れたり、研究されている方のお話を伺うのは非常に素晴らしい機会だと思います。今後も引き続き制度を存続していただきたいと思います。
先輩方がどのように連絡先を見つけたかなど、準備段階での情報の共有がさらにあれば、今後研修の計画を立てて行く上での参考になるのではないかと思います。

グローバルな視点とは何か

何をするにしても、何か課題があり、その課題を解決しようとしてアプローチがなされると思います。下記に述べることはどこで活動するにしても必要だとは思いますが、そのアプローチを行う場所が海外になるのであれば、現地の人との信頼関係を築いたり、外国人である日本の人が行うからこそ与えぬメリット・デメリットを考慮した上で活動を行えることがグローバルな視点を持つ、ということの一つだと思います。

後輩へのアドバイス

安全面や英語力、それに非英語圏の場合は現地語がわからないなど行く前は不安もあるかとは思いますが、なんだかんだなんとかなるので、行きたいと思ったら行ってみましょう。
計画段階では、訪問先を自分の興味のある分野と関連するように探して行くのがベストですが、まだ決まっていない場合は先生に積極的に相談してみると良いと思います。